

ハイスクールハザードマップ High School Hazard Map Project

「高校生の安全意識国際比較調査と安全対策 新世紀型犯罪に巻き込まれないために」

International survey on students' personal safety awareness and risk management against new types of crime

2003年3月1日(土)

羽衣学園中・高等学校 米田 謙三

1 プロジェクトの目的・意義

日米の中学・高校の教室をインターネットを中核としたIT (Information Technology) で結び、参加生徒間の議論を通じて、身近な安全(パーソナル・セイフティー)に対して、日米の間で違いを学ぶ。議論を通じて学んだ日米間の違いを確認するため、相互に相手国を訪問し、フェイス・ツー・フェイスの交流を行う。「安全」という最も基本的な生活環境の違いは、当然、様々な分野における考え方の相違をもたらす。つまり、安全・危険は、その土台・土俵、あるいは、下部構造といえるもので、この違いが理解されていなければ、その上にどのような議論や交流を築いても、本当の理解は生まれないと考えられる。国や個人の安全が世界中で脅かされ、安全に対する聖域がなくなりつつある現状とこれに対する国家間や個人の間での姿勢の違いが誤解を生み、信頼を前提とした交流を行うことを困難にしている。本企画は以上の視点をもとに、ITという新しいツールを使いながら、新しい時代の交流のあり方を交流実践を通じて探る。

2 実施計画・予定

2002年4月 校内調整 教員：企画全体について、特に海外派遣について、各校の校内調整を行う

6月 企画の趣旨説明・BS利用時の注意事項説明 クラス・クラブ・個人のBS開始

教員：第一回BSをもとに、次の展開・進め方の検討を行う 実施したBSの内容について、注意事項の確認と内容の明確化
(ニューヨーク教委、I*earn USA, 日米センターニューヨークオフィス訪問)

他校・他クラスのBSを見た上で、第二回目のBS実施

教員：第2回BSをもとに、次の展開・進め方の検討を行う 関心の高いトピックに関係する場所などを実施見学

BSの特徴やグループ分けを考えさせるグループ分けについての第三回BSを実施。

教員：どのようなグループにわけるか生徒に考えさせる。(考えられたグループとは、(1) 性犯罪 (2) 食の安全性 (3) 環境汚染問題
(4) 国際紛争 (5) (学校・家庭・通学途上・近隣で経験する) 身近な暴力(言葉の暴力・肉体的暴力を含む) (6) 国家 (7) 宗教 (8) メディアなど 教員：第3回BSをもとにサブトピックを決定 次の展開・進め方の検討

7月 (1) 各校参加生徒が集まり、反省・確認・今後の展開について討議 (2) 大阪府警察本部ハイテク犯罪対策室による講演

8月 サブトピックを選び、参加生徒各個人で調査・研究を行う。教員：生徒の調査研究の進め方について、質問に答えるなどして、個別指導を行う。評価：Student of the Monthを決定(6月~8月)

9月 研究発表大会を実施し そのあとグループ研究で理解を深める パワーポイントなどでまとめ

10月 国際共通BS・ボードを設置。トピック別に議論を深める(英語・日本語可)

教員：海外の書き込みとのやりとりの中で、気づいた点などについて講義する

11月 JEARN 関西セミナーで 教育関係者(ニューヨークからも含む)の前で調べた内容を発表

ニューヨーク事務所 ディレクターによる授業実施 安全についてのアンケートを日米で実施し、収集・分析し、グループ研究

12月 関心の高いトピックに関係する場所などを実施見学(大阪府堺市 みかん農園訪問など)

参加生徒のここまでの自己評価(活動を通じて学んだこと)

2003年1月 海外派遣について。現地での活動内容。引率者について 海外派遣生徒の決定

2月 日米 グループ分けを行い、今までの研究で深めた内容をもとに意見交換を行う

3月 日本から2名の生徒ハワイ教育省主催全州会議で発表。現地調査。ホームステイ。ハワイ生と交流
日本から7名の生徒、ニューヨーク訪問。現地調査。ホームステイ。ニューヨーク生徒と交流。
安全に対する自己認識レーザーチャートを作成する。

5月 各グループの研究内容をまとめて、ウェブ上に掲載。絵・写真・映像なども含む。

教員：グループ研究のまとめを英訳する補助をして、ウェブ上に掲載する際の助言

7月ニューヨークから10名の生徒、日本訪問。JEARNの国際会議(7月20日~26日)参加。現地調査。ホームステイ。日本の生徒と交流
韓国からの参加も予定。7月15日~27日 研究内容の共有。意見交換。

8月 参加性との全体的な自己評価 教員：まとめ

3 VB とレーダーチャートの一部



プロジェクト担当者

(1) 日本側

辻 陽一 (帝塚山学院泉ヶ丘中高等学校) 飯田 英佳 (四条畷学園中高等学校) 小林 直行 (清教学園中高等学校)
高田 健三 (大阪国際大和田中高等学校) 小池 崇司 (プール学院中高等学校) 川崎 初冶 (飛翔館中高等学校)
津田 郁夫 (大阪薫英中高等学校) 村上 徹 (精華高等学校) 米田 謙三 (羽衣学園中・高等学校)

(2) アメリカ側

Dr. Edwin Gragert (i*earn USA) Kerry Koide (ハワイ教育省) Cindy Won (Aiea High School) ホノルル
Faith Fukuyama (Kaimuki High School) ホノルル Sheryl Weuker (Frederick Douglas Academy) NYC
Melanie S. Lee (Erasmus Hall Campus High School for Business & Technology) NYC

(3) 助言・研究者

(1) 田中 博之 大阪教育大学助教授 (2) 影戸 誠 日本福祉大学助教授
(3) 長尾 尚 大阪信愛女学院メディアセンター副所長 (4) 稲垣 忠 関西大学総合政策部大学院博士課程

助成金

国際交流基金日米センター (CGP) 420万円

松下視聴覚教育研究財団 60万円